

「港南台地区センターまつり」

2015年02月25日

私の住む団地から歩いて3分くらいの所に、港南台地区センターの建物がある。ロビー、図書室、集会室、そしてバスケットができるくらいの体育館もある。地域の人々のコミュニケーションセンターとして有効に用いられている。いつ行っても、人々が入り出し、活気がある。毎年ここで「港南台地区センターまつり」が行われている。趣味で、一年間作り上げたものを展示したり、練習してきたものを披露するまつりである。絵画、習字、刺繍から、練習した合唱、フラダンスなど多様である。料理を趣味にしている人々はカレーやおでんを作って、食べさせてくれる。年々、盛んになっているようで、新しい町のコミュニケーションの場として楽しんでいる。

「港南台9条の会」もまつりに参加している。9条の会には、作品を展示したり、練習したものを披露するものはない。まつりの趣旨から多少離れているが、参加が認められ、毎年参加している。9条の条文を書いた大きなパッチワーク刺繍を掲げ、平和川柳や、平和の絵を並べ、憲法に関する著作などを展示してきた。今年は『平和へのバトン 第2集』を配布した。9条の会は毎月第4土曜日に例会を持ち、参加者が順番に「平和の語り部」として、自分の9条や平和への関わりを話している。話を聞いて、メンバーは皆、タフな生き方をしていると感嘆する。それを、出版関係の人が小冊子にまとめている。細かい注が付けられ、よくできていると思う。今年のまつりで160部くらい配布できた。

もう一つは、やなせたかしの「アンパンマン」の絵を掲げ、折り紙をする場を作った。子どもたちが集まり、折り紙を折って、アンパンマンの絵の周りに張り付けた。引きも切らずに、子どもたちが熱心に折って楽しんでいた。私は、やなせ氏を飢えた人に自分の顔のアンパンを食べさせるマンガを描いた人というくらいしか知らなかった。今回、並べられていたやなせ氏の自伝や著作を読んだ。なるほど、人々を魅了する経験と思想を持った方だと分かった。柔らかな感性で、平和を求めてマンガを描いたのである。自分自身を与えるアンパンマンの哲学は「正義とは何か、傷つくことなしには正義は行えない」である。また、本物を見聞きするように勧めている。偽物が多い中、本物の著作、芸術、音楽に触れることによって、確かなものが生み出されてくるということは真理である。

9条の会はまつりに相応しくない点もある。また、9条の会が行政から締め出されている所もある。幸い、参加が認められているので、平和憲法を知ってもらう場として大事に、そして継続して参加していきたいと願っている。私も、まつりを通して港南台の人々との関わりを広げられ、嬉しく思っている。

安倍首相の暴走は止まらない。特定秘密保護法、集団的自衛権の行使、武器輸出三原則の見直し、そして「周辺事態」の周辺が削られ、世界のどこにでも自衛隊は行く、更に米軍だけでなく、どの国の軍隊とも協働し合うと言う。9条は墨で真っ黒に塗られてしまっている。9条の条文は残しながら中身を全く変えていく。言葉を「本音と建前」で分けることでは互いの不信感が広がり、深い虚無感を醸成する。恐ろしい限りである。安倍首相は二言目には「生命と財産」を守ると言うが、守ろうとしているとは思えない。自衛隊を海外に派遣し命の危険に晒し、テロの標的になることに躊躇していない。世界に冠たる日本として、武力で認知させようとしているだけではないか。この暴走に歯止めがかけられない状況が何とも歯がゆい。中国、韓国だけでなく、もはや米国も日本の右傾化に警戒している。他国に頼るのではなく、国民が声をあげ、暴走を許してはならない。